絵本通宝志

37

絵本通宝志巻之四目録

吉野山之景　御祓
遊行柳　淡路嶋
山路之時鳥　近江八景
若狭後瀬山八幡宮春之景
青井夏之蒼海　雲濱秋之景
津田冬之景

吉野山之景

明石之曙

阿州里海士風景

伊勢二見浦風景

熊野三所之景

住乃江之景

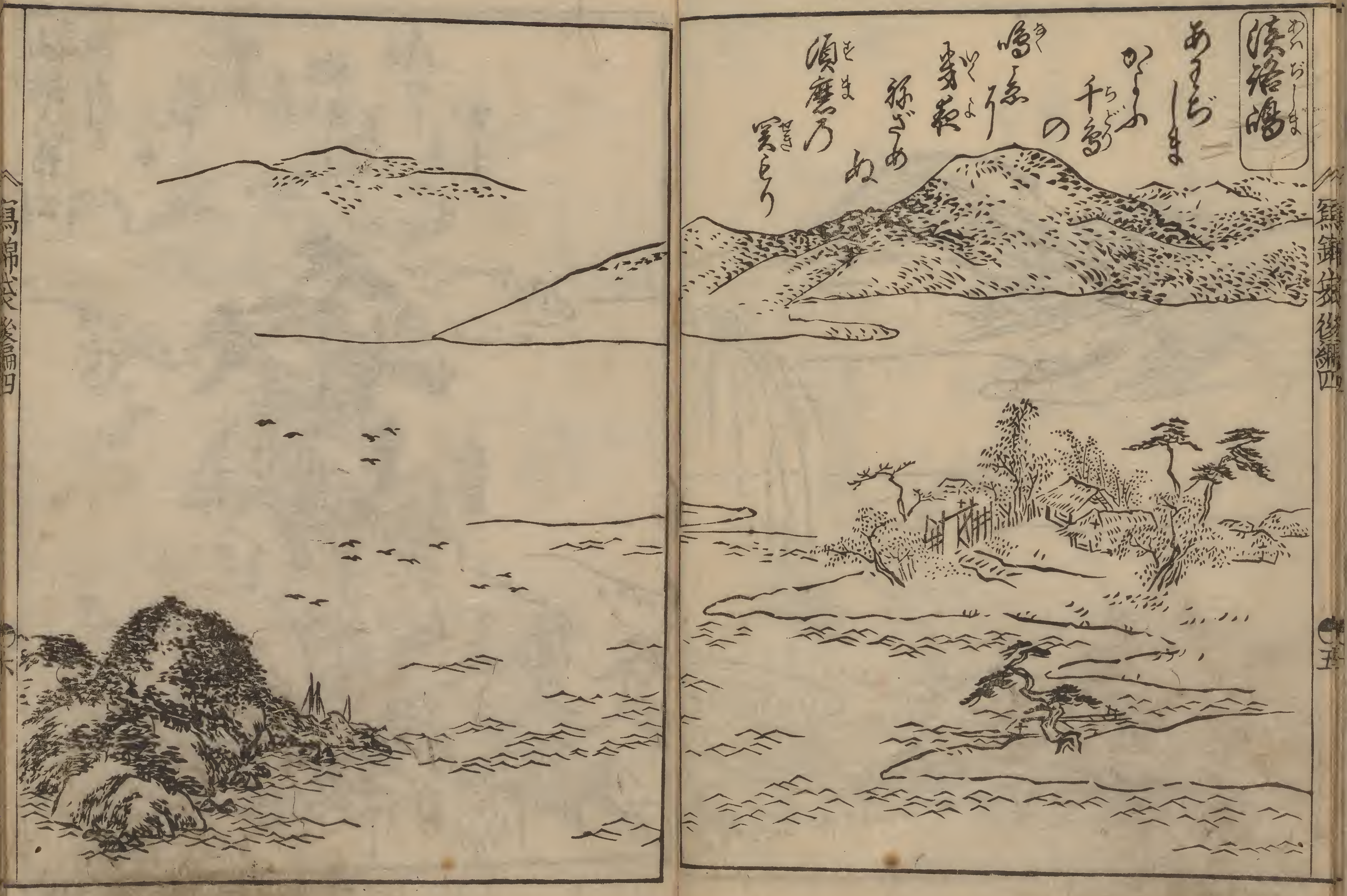
和州立田川之景

筑紫箱崎海中之道

御禊

風そよぐならの小川の夕暮ハ
みそぎぞ
夏のしるし
なりける

遊行柳
道野辺に清水流るゝ柳陰しばしとてこそ立とまりつれ
西行法師


淡路嶋（あはぢしま）
あはぢしま
かよふ千鳥（ちどり）の
鳴（なく）こゑに
幾夜（いくよ）
ねざめぬ
須磨（すま）乃
関（せき）もり

山路乃郭公
山がはと
人は
いへども
時鳥
まづ
初音
とぞ
我のこそ
聞

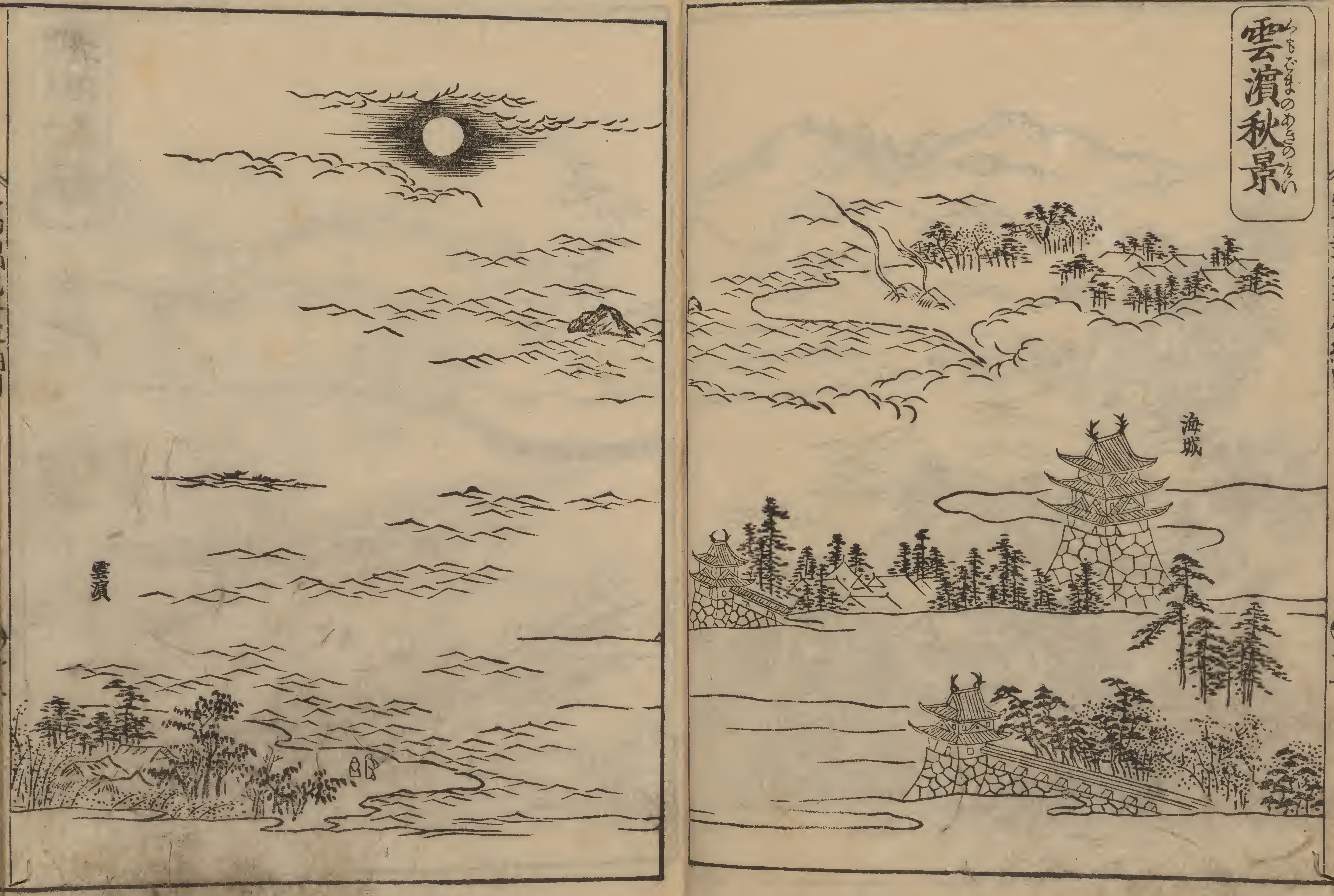
近江八景
あふミはつけい
比良
ひら
かた田
から崎
三井寺
ひゑいさん
矢ばせ
や

やばせ
膳所

石山
勢田

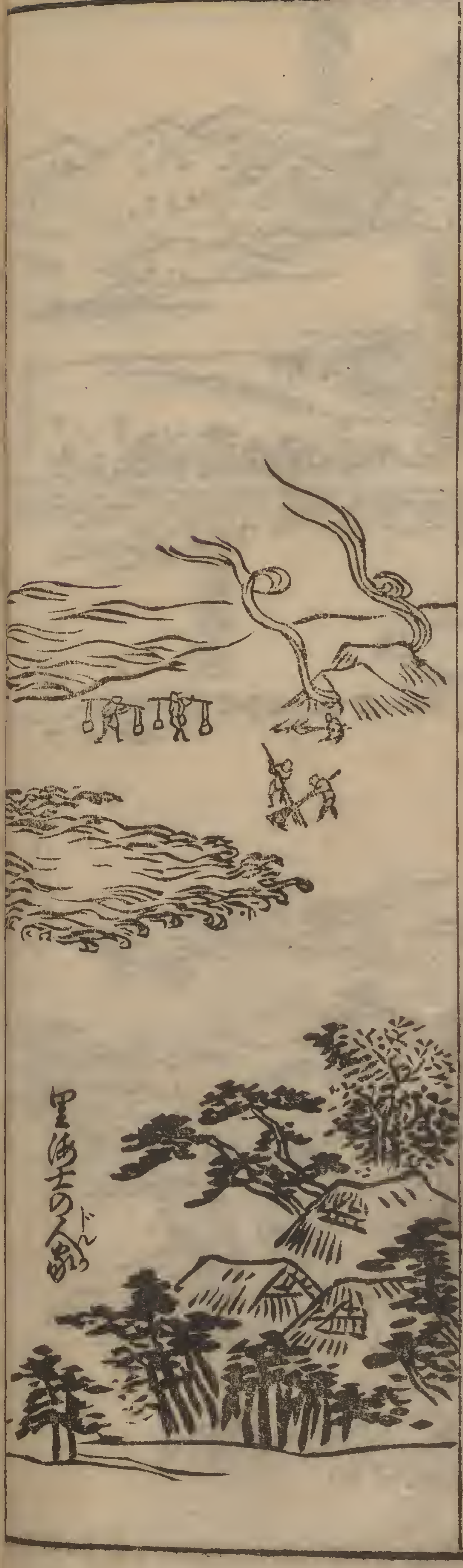
別所後瀬山
八幡
八まん宮
市町

青井夏蒼海（あをゐなつのさうかい）


雲濱秋景（うんぴんのあきのけい）
海城
雲濱

津田冬景
つだのふゆのけい

明石朝曙
あかし あさぼらけ
摩耶山
兵庫
月見松
和田笠松



里の海士ハ阿波の国の名所にて人の多くきたれり
後鳥羽院の御宇三月十八日人麿の忌日御詠の御会を
遂させらる又藤原信実の妙手なるにより命を蒙り人
丸の像を畫き里海士人丸とて深く伝ありて人の像ハなき也
事を畢る御倉の具物は此里海人の作下さる里人命により
料用の物を捧ぐとなりて又磯崎の一本松是名におふ大木なり其
なれバ里あまの手向の手とぞさとも是をしてしき道あり清少納言
四国にありける和にぞまかりきといふ

二見浦風景
いせの三ツ松

熊野三所之図

住の江
すみのえ乃岸によるなみよるさへや
夢のかよひぢ人めよくらむ

筑前箱崎海中道
浪あらは
汐干乃雲の
まつがさ
嶋より浮ぐ 鳥
海の 中 道
右翁二の松原
三保 東雲
橋立 小雲
若浦 西雲

立田川
千早振神代もきかぞ立田河から紅に
水くゝるとは